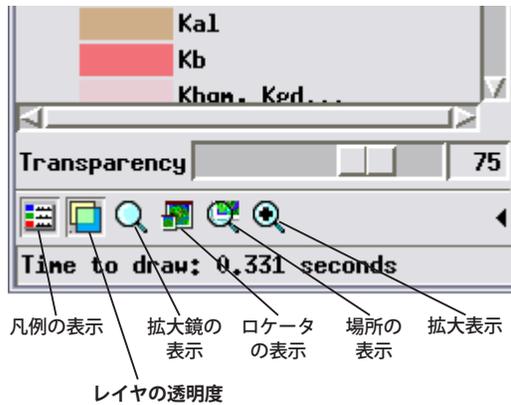


任意レイヤの透明度変更

表示ウィンドウのサイドバーにある透明度スライダーを使って、任意のレイヤの透明度を変更することができます (TNTmips、TNTview、TNTedit の表示)。サイドバーの下にある [レイヤの透明度 (Layer Transparency)] アイコンを使うことでサイドバーにこのスライダーを追加することが出来ます (右図)。透明度は 0 から 100% の範囲で変えられます。スライダー横の入力可能数字フィールドには、現在の透明度が % 表示されています。

透明度スライダーの設定は、表示ウィンドウにおいて現在アクティブになっているレイヤに対して適用されます。それぞれのレイヤを同じようにアクティブ状態にしてそれらのレイヤの透明度スライダーを調節することにより、表示ウィンドウ内にある任意の数のレイヤの透明度を個別に設定することが出来ます。

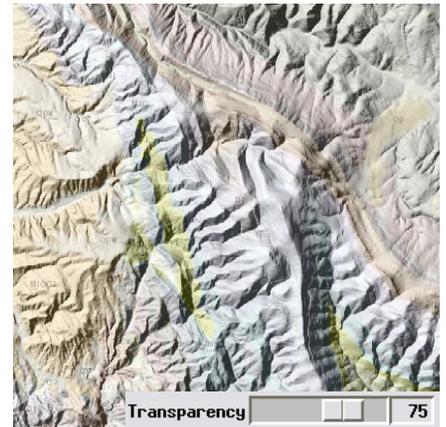
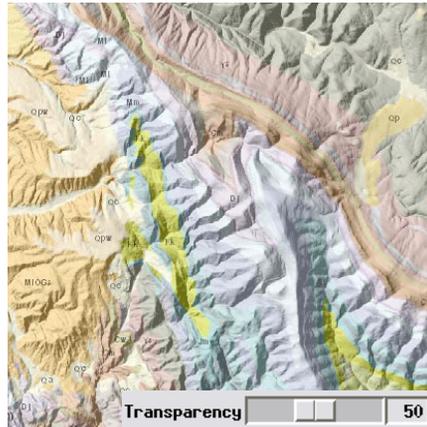
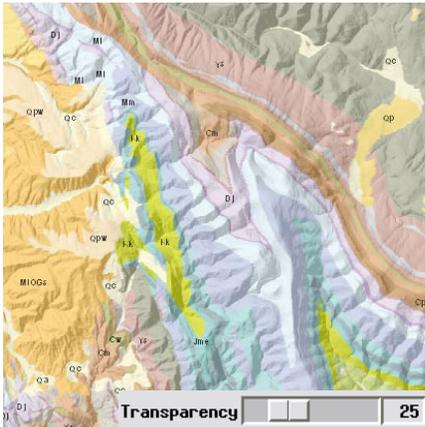
レイヤの透明度は、ラスタ、web タイルセット、ベクタ、CAD、シェイプ、TIN 等の図形型オブジェクト、リンクされた外部フォーマットデータなど、様々なタイプの地理空間データに対して設定できます。ただしデータベースマップのポイントレイヤに対しては透明度は適用できません。透明度は、図形型オブジェクトのポイント、ライン、



透明度スライダーを表示するには、表示ウィンドウのサイドバー下部にある [レイヤの透明度] アイコンを押します。レイヤの透明度を調節するには、まずサイドバーまたは表示マネージャ中のレイヤリストの上で設定するレイヤをクリックしてアクティブにします (レイヤ名が太字になります)。その後スライダーを動かします。

ラベル、ポリゴンの境界線・塗りつぶし部分の全ての要素に対して適用することが出来ます。レイヤの透明度は、図形オブジェクトのポリゴンの塗りつぶしスタイルやラスタレイヤ (ラスタレイヤコントロールウィンドウで設定可能) において既に設定済みの透明度に対しても追加する形で適用されます。最後に使用した透明度設定が、他の表示設定と一緒に各空間オブジェクトに保存されます。レイヤ透明度の例をいくつか下図に示しました。

陰影起伏ラスタ上に表示したポリゴン地図とダイナミックラベル



陰影起伏ラスタ上にレイヤの透明度 50% で表示した web タイルセットのオルソ画像



web タイルセットのオルソ画像上に表示したリンクシェイプファイル形式の道路線

